

仙林寺だより

NO. 44
編集・発行
松田正貴

行事報告

花まつり

四月八日は「花まつり」 お釈迦様のお誕生をお祝いする日です。「灌仏会」「仏生会」とも言い、仏教の代表的な行事の一つです。この時の様子を挿話として言い伝えられている有名な言葉に「天上天下唯我独尊（でんじょうてんかたげゆいがどくそん）」があります。天にも地にもただ我一人尊いと読めますので、一般に利己的な表現として誤用されているようです。ですが、本来は人間一人一人の命や存在が、如何に尊いかを説いた、個々の命尊重のお言葉です。

ところで、所謂お戒名を授かるとは、仏教徒としてお釈迦様とのご縁を繋ぎ、はるかな命の繋がりの仲間入りを遂げるお約束を頂いた証しです。この様に考えますと、「花まつり」をお祝いするという事は、単にお釈迦様の誕生日に参加するというだけではなく、お釈迦様の命は誰あるう私の命であり、大切に扱うべき思いを確認する場として機能するものではないでしょうか。毎日のように命の無駄使いが報じられる昨今です。仏教行事として、最も子供達に参加して欲しい理由が、この辺りにあります。

式では灌仏（かんぶつ）が行われます。幼少のお釈迦様を模した像に甘茶を灌ぎます。

お釈迦様が花に囲まれたルンビニーの園でお生まれになった時、天が花を降らせ、また祝福の甘露の雨を灌いだという逸話に由来します。以前は五香水とか五色水という香水を使っていたと書物にあります。江戸時代頃から天茶 甘茶を甘露になぞらえて使われるようになったそうです。ところでこの甘茶、所謂甘茶ヅルとは別物で、ユキノシタ科のアマチャを乾燥させたものを煮出してお茶にします。独特の甘みがあり、また漢方として、抗酸化作用、脳の活性化、花粉症改善などの効果が知られております。古い経典にも、「誕生仏に甘茶をおかけする事により、無病息災で長寿が得られ、家族・縁者もその功德によって安穩に生きることができ、未来には速やかに菩提を証して仏になることができる」とあります。また、甘茶で墨をすり、虫除けのおまじないとして戸に張る事もあったようです。非科学的と笑うことなかれ、信じる者は救われる？

ほばら花まつり稚児行列

二十九日（みどりの日）、ほばら大法螺会（超宗派仏教会）主催、記念すべき第一回目の行事です。今年二月の会発足時より回を重ね案を練り上げました。協力金のお願い、お稚児さん募集、ボランティアの要請等々、商工会青年部はじめ、JA伊達みらい、かみや商店あんちゃんズ、多くの皆様方にお知恵を拝借しました。

いよいよ当日、申し込み人数はお稚児さん

八十五名、御詠歌百二十名とそれだけでも二百名を超える大所帯、問題は親御さん、想定外の人数にバスのピストン送迎はおおあらかず用意していた「花まつり」謂れのお話も、とてもそれどころではなく、灌仏、ご祈祷のみで精一杯、ともかくもドタバタの蓋を開ければいよいよ出発、ボランティアの鎌田さんの大梵鐘を合図に、打ち上げ花火でその場の雰囲気はいやが上にも盛り上がります。

沿道がまた人、人、人だかり、用意した千枚の散華もあつという間に品切れ状態、嬉しい誤算とはいえ、お渡しできなかった方には申し訳ない事をしました。

長谷寺ではお加持をいただき、中央公民館での着替えが済めば、お待ちかねのお土産プレゼント、光陽スタジオ馬場さんのご協力で、一人一人プロの写真をしかも額付きで頂けます。子供さんは勿論親御さんも大喜びです。閉会式には、橋本代表がしっかりと来年のコーマーシャル。

私はと言うと、次のアイディアを模索中、更なる法螺の音色にご期待下さい。



果てしなく続く行列？



可愛いお稚児さん